平和記念だより 86

2023年1月

◆編集･発行/高松市市民政策局人権啓発課　高松市平和記念館
◆連　絡　先/高松市松島町一丁目15番１号　たかまつミライエ５階
〒760-0068　TEL(087)833-2211　FAX(087)833-2244

平和学習(こども未来館学習)

　コロナウイルス感染防止のため、中断や予定変更を余儀なくされていた「こども未来館学習」が、今年度はほぼ予定通り実施できています。「こども未来館学習」は、高松市の小学生(一部中学生)を対象に、たかまつミライエの各施設を活用して行う学習活動です。「平和学習」はその中の一つです。平和記念館の展示物や資料、映像等を使って「高松空襲」や「戦時下のくらし」について学びます。その他にも、修学旅行や校外学習でたかまつミライエを訪れ、「平和学習」を希望される県外や県内他市の学校もあります。「平和学習」には、４月から現在(１２月末)までに、合わせて 52 校(約 4,000 人)の皆さんが参加しました。今回は、平和学習実施後にいただいたお便りの中から、感想の一部を抜粋して紹介します。

平和学習の様子と感想

・空襲のおそろしさや戦時中の様子がよく分かりました。

・戦争のため必要なものがなくなって、生活がとても貧しくなったことを知りました。

・戦争に行く軍人だけでなく、残された女性や子どもも大変ということも知りました。

・たくさんの人が死ぬ戦争は、絶対にしてはいけないと思いました。

・大人になっても、争いではなく話し合いやゆずり合いで解決したいと思いました。

・戦争を経験している人が少なくなっているので、ぼくが後世の人々に伝えていきたいです。

高松市戦争遺品等収蔵品巡回展「田村文化センター」

戦争遺品等収蔵品巡回展の様子

令和４年１１月１８日(金)、１９日(土)、田村文化センターで「戦争遺品等収蔵品巡回展」を開催しました。高松空襲の全貌が分かる年表、戦争遺品や戦争に関する資料や写真パネル等、計４６点を展示しました。文化センターの文化祭開催中ということもあり、大勢の方にご来場いただきました。ありがとうございました。ご来場の方からは、「立ち寄りやすい身近な場所で開催するのは意義のあることだ。」「年表を見て、疎開が禁止されていたことを知って驚いた。」といったご意見やご感想をいただきました。

館内展示の紹介①

心象展示「出征の朝」

高松市平和記念館では、戦時下のくらしや空襲について、実物資料やレプリカ、マジックビジョンやジオラマ等映像資料により展示・説明をしています。その中の一つが、実物大の人形とサウンドドラマによる心象展示です。今回は、「出征の朝」の場面で流れているサウンドドラマの音声を紹介します。出征する兵士が、家族に見送られて列車に乗り込む様子が再現されています。家族を残していく兵士、戦地に送り出す家族の、お互いを思いやる気持ちが伝わってきます。

登場人物

軍服の男性(出征する兵士「高松」)　妙子(高松の妻)

かつひこ(長男)　たかお(二男)　着物の男性(高松の父)

ザワザワ、ザワザワ、ガヤガヤ、ガヤガヤ

―人々のざわめき―

高松　「よいしょ。重うなったのぉ。」

たかお　「おぎゃー、おぎゃー。」

高松　「うん、どうした、どうした。」

妙子　「よし、よし、よし、よし。」

高松　「そうか、お腹すいたんか。」

シュッ、シュッ、シュッ、シュッ、シュッ　…ガタン

―列車がホームに到着する―

高松　「それではお父さん、行ってまいります。」

高松の父　「うむ、しっかりな。」

高松　「かつひこ。おかあちゃんの言うこと、よう聞くんやぞ。」

かつひこ　「うん。」

妙子　「体にはくれぐれも気をつけて。」

高松　「あぁ、おまえもな。」

バンザーイ、バンザーイ、バンザーイ

―見送りの人々が万歳三唱する声―

ボォーッ…　シュッ、シュッ、シュッ、シュッ、シュッ、シュッ…

―汽笛を鳴らして蒸気機関車が動き出す―

証言 高松空襲

あの日わたしは

証言③　雄倉孝尚さん

警戒警報、空襲警報が鳴り、私たちは自宅の地下室に入った。「シュー、シュー」と、焼夷弾が落ちる音が聞こえ、このままでは危ないということで、地下室から出て近くの空き地にあった防空壕に逃げ込んだ。防空壕から外をのぞくと、自宅が焼け落ちるのが見えた。熱風と煙が吹き込んできた。熱いし窒息しそうになったが、空襲が終わるまでそこに留まった。防空壕から出ると、周りはがれきの山で、遠くまで見渡せた。焼け残った衣類や日用品を大八車に積んで昭和町の知人宅に向かい、親戚と合流した後、国分寺の端岡村にある遠縁宅へと出発した。

証言者プロフィール

- ■当時　中学１年生
- ■住所　一番丁
- ■家族　11 人同居
  父母、子ども３人
  祖父母、親戚
- ■家業　不明

「あの日わたしは　高松空襲～当時を伝える証言者の声～」(高松空襲を子どもたちに伝える会)証言映像より編集

平和映画☆上映会のお知らせ

平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

１月の上映　**「ウミガメと少年(野坂昭如戦争童話集)」**（45 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝、午後１時上映開始

解　説▶　将来の夢を語り合ったノリオと花子がテツオの目の前で空襲により命を奪われる。「いつか一緒に見よう。」と約束したウミガメの産卵を目にしたテツオは、卵を大事に育てようとするが…。野坂昭如さん原作のアニメーション。

２月の上映　**「お星さまのレール」**（76 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝、午後２時上映開始

解　説▶　1940 年、朝鮮の新義州ですくすく育つ主人公チコ。日増しに激しさを増した戦争は、やがて日本の敗戦で終わる。そして、日本への引き揚げの逃避行が始まる。女優、小林千登勢さんの実体験を描いた児童文学が原作。

３月の上映　**「アゲハがとんだ」**（20 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝、午後１時上映開始

解　説▶　学童疎開先から、卒業式を母校で迎えるために、一旦東京に戻ることになった６年生。家族との再会を楽しんだ子どもたちを、３月 10 日未明、B29 爆撃機が襲う。東京大空襲の惨劇を描いた短編アニメーション。

※　都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

収蔵品紹介76

教科書(高等女学校)

寄贈者　　金倉　修 様

寄贈者の母親が、戦前・戦時下で使用していた 100 冊を超える教科書のうちの一部。今回紹介するのは、高等女学校時代の教科書から、「昭和新修身訓４年制用(巻三)」「女子養蚕新教科書」「新々裁縫教科書１～４」「現代家事教科書(上巻)」「女子園芸教本」「女子教育学」等の１１点。母親は香川県立香川高等女学校(現香川県立高松南高等学校)を 1944(昭和１９)年３月に卒業している。

高等女学校は尋常小学校(戦時下は国民学校初等科)を卒業後に、女子が進学する場合の中等教育機関であり、教科書の「裁縫」「家事」等は女学校ならではの教科であった。

平和記念館「企画展示コーナー」に展示中

戦時用語解説 68

復員・引き揚げ

【読み】ふくいん・ひきあげ
【分類】戦後の復興

戦争に敗れて、植民地や占領地をすべて失った日本にとって、海外に残された兵士や一般の人々を早急に無事に帰国させることは、困難な問題であった。日本の船は戦争でほとんど沈められていたので、アメリカの船も借りて、1949（昭和 24）年までに 620 万人が帰国し、シベリアなどの一部を除き、復員・引き揚げはほぼ完了した。

途中、病気や飢えに苦しみ、命を落とす者もいた。また、終戦当時の国内人口の１割近い人々が、荒廃した祖国へ一斉に帰還したため、新しい生活を築く引き揚げ者の苦労も、戦災者同様大変なものであった。

復員…軍人が、日本に帰ってきて軍人としての仕事をしなくてよくなること。
引き揚げ…海外で生活していた一般の人が日本に帰ってくること。

（高松市平和記念館展示キャプションより）

編集メモ

平和記念館の心象展示のコーナーは、今回紹介した「出征の朝」の他、「高松空襲と焦土の街」、「再開の日」と全部で三つの場面で構成されています。「高松空襲と焦土の街」の場面では、空襲後の焼け野原で途方に暮れる一家の様子、「再開の日」の場面では復員してきた父親を迎え、お互いの無事を喜ぶ一家のやりとりが、実物大の人形とサウンドドラマで表現されています。三つの場面を時間の流れに沿って見ていくと、二人の子どもが少しずつ成長していく姿も分かります。ご来館の際には、ぜひご注目ください。

たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ５階）

開館時間：午前９時～午後５時（入館は午後４時 30 分まで）
休 館 日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始12/29~1/3
入 館 料：無料
▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）　▲QR コード
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html

▶次回 87 号発行は、2023 年４月です。